観光基本計画
横越村観光ことはじめ

横越村の観光は今後どのように進めるべきかを、コンサルタント会社に調査委託していましたが、このほど観光計画「横越村観光事始め」がまとまりました。

―何故観光なのか

横越村で観光といえるものは北方文化博物館しかないのに、どうして村が今観光を重点施策として行うのかと首をかしげる村民の方も多いと思います。新潟市に近く、宅地開発も順調で、工業団地が完成すれば工場もどんどん進出するし、49号線バイパス、東北横断自動車道と交通条件も良くなり、だまっていても新潟市のベットタウンとして村は発展するのにとお思いのことでしょう。しかしながら、これと同時に、大切な横越村の独自性は失われ、地域の結びつきもなくなってしまうのでないでしょうか。

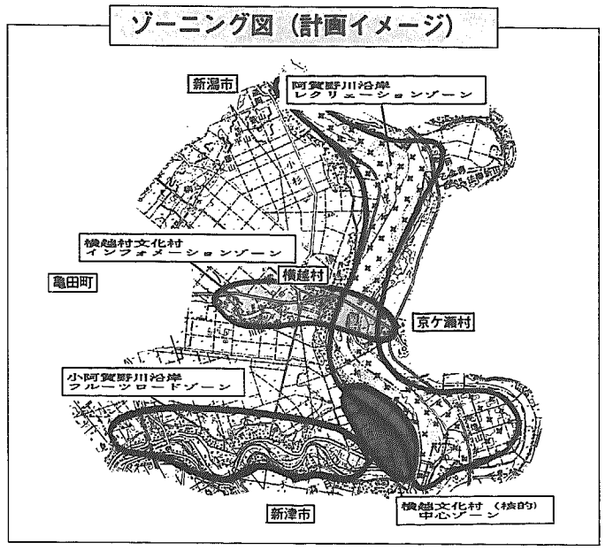
観光という言葉はかつての「名所・旧跡などを見物することに併うサービス産業」として使われていましたが、今では過疎の進む地域が観光に熱心なことを見ても分かるように「その土地の自然、歴史、文化の総体、人々の交流」（むらづくり、むらおこし）としてとらえられていることが多いようです。

観光は農業、商工業など他の地域産業をはじめ、社会文化のあらゆる面での活性化をもたらし、村民一人ひとりが観光を考え、イベントや文化財の掘り起し、伝統の受継ぎなどの積重ねなどにより、横越らしさを発見し、横越村民としての自覚と誇りを回復できるのではないでしょうか。人口の増加が急速に進むなか「ただ寝に帰るだけのベットタウン化」を防ぐためにも、観光に取り組もうというものです。

計画ができるまで

上越新幹線、関越自動車道の全通により、北方文化博物館への観光客が急増したことに伴い、昭和61年に観光公害対策と横越村の観光整備と観光資源の開発のあり方について検討するため観光対策委員会が設置されました。同年十月には観光公害対策に関する中間答申が出され、その後審議を重ね昨年六月に最終答申が出され、観光基本計画策定の重要性が指摘されました。

これを受け村では計画の策定業務をコンサルタント会社に委託するとともに、行政、商工、農業団体の代表をはじめ、新大工学部の大熊教授、写真家の弓納持福夫氏など、を構成員とした専門委員会を設置し、村内外の人々の意見要望をとり入れながら策定作業が進められ、このほど調査結果がまとまったものです。



基本計画の概略

《観光資源の可能性》

計画ではまず村の観光資源の分析を行い、その可能性を示しています。その結果村の観光資源は

一、川（水）
阿賀野川、小阿賀野川、水辺、河川敷

二、土（農業）
コシヒカリ、果樹、チューリップなどの農産物

三、文化（人）
北方文化博物館、大栄寺などの寺院、歴史文化の三つの土台で構成され、個々の観光資源を、知名度、管理状況、景観修景などの面から総合的に検討した結果、可能性の特に高いものは、北方文化博物館と阿賀野川であるとしています。

《観光基本構想》

また、これからの観光のあり方として三つの柱（プロジェクト）を示しています。まず短期中期的なものとしては

一、横越観光は文化を中心とするまちづくり…横越文化村構想
横越村のイメージづくりと観光整備ゾーニング
沢海地区…横越観光の中心ゾーン
阿賀野川沿岸地域…川辺の散策とハイキング、自然観察ゾーン
木津・二本木地区…農業観光（フルーツロード）と小阿賀沿岸ゾーン
49号線沿線…インフォメーションゾーン
その他の地区…生産と人の支援供給ゾーン

二、人づくりが要…組織づくりとひとづくり
●（仮）横越文化村会議を組織し、運動や観光の企画推進を図り、その手法の検討
●イベントや村の文化の掘り起こし、伝統の受け継ぎなどの積み重ねによる観光とまちづくり運動の推進
長期的なものとして

三、新たに観光の魅力をつくる…横越文化村ものづくり
●（仮）阿賀野川河川博物館
●北方文化博物館の機能強化と沢海集落の整備
●河川敷公園構想
●水上バス…水上ネットワーク
●小阿賀野川沿岸フルーツロード構想
この三つのプロジェクトの推進により、通過型観光から半滞在型観光への脱皮と観光公害のない、地域産業とともに発展する住みよい観光地づくりをめざしています。

《今後の取り組み》

村ではこの基本計画に沿った観光振興に力を入れ、村の全体的な活性化につなげる方針です。具体的には、観光協会などの組織整備や人づくりに取り組むため、観光啓蒙シンポジウムを計画しています。

来月号から何回かに分けてより具体的な観光基本計画を紹介していきます。

村の活性化に大きな期待
木津工業団地造成工事に着手

地鎮祭でクワ入れをする浅見村長

村の活性化と農工両立をめざした木津工業団地の造成工事が、五月二十四日地鎮祭を行い今年十二月の完成をめざしてはじまりました。

木津工業団地は、優良企業の誘致を図り、雇用の拡大と財政基盤の確立をめざすもので、昨年度に用地買収を行い準備を進めてきました。

造成面積は一五・八㌶、工事内容は盛土・整地、道路築造、上下水道管布設等で、十九区画の造成を行う予定になっています。

この工業団地は、木津農協倉庫前の県道酒屋・沢海線沿いに造成され、現在建設中の国道四十九号横雲バイパス、東北横断自動車道インターから近く、また、新潟市に近いことから企業立地に好条件の場所とあって、すでに各種の企業から進出希望が寄せられており、早々に企業との進出協定も結ばれることになっています。

また、計画では将来的に団地内での工業出荷額一〇〇億円、新規雇用二八〇人が見込まれており、村の活性化に大きな期待が寄せられています。

佐藤代表区長（横越）が一日郵便局長
＝4月20日の逓信記念日＝

郵政省では四月二十日の逓信記念日に、いろいろな記念行事を実施していますが、横越郵便局では今年、横越の代表区長である佐藤豊次さんを一日局長に委嘱。

佐藤一日局長は八時二十分に出勤、式典のあと職員一同に「これからも一層地域との結びつきを深めて共に発展してほしい。また機械化、省力化の現代にあっても郵便の配達はもっぱら人手が頼り、大変でしょうががんばって下さい」と訓示を行いました。

このあと、窓口業務と郵便配達の準備作業などを視察、岡本局長からも郵政三事業（郵便、貯金、保険）の現況と横越局の局務内容等の説明を受けて、十時半無事行事を終了しました。

第2回臨時会
工業団地造成工事契約可決
常任委員新構成決まる

村議会第二回臨時会が四月二十八日開かれ、専決処分の承認、工事請負契約の締結、議会の各常任委員等の選任など十六件の議案を審議し、それぞれ原案どおり可決、承認されました。

おもな議案

■専決処分
○村税条例の一部改正
○公共施設の使用料徴収を十月からとする関係条例の一部改正

■工事請負契約の締結
○木津工業団地造成第一工区
契約金額　四億八九一万円
契約の相手方
新農共同企業体
代表者　大橋組
○木津工業団地造成第二工区
契約金額　四億六、一四四万円
契約の相手方
中央建設企業体
代表者　遠藤組

■常任委員等の選任
総務文教常任委員会
委員長　石川　敬一
副委員長　阿部　兵一
委　員　渋谷　泉
〃　佐藤　三次
〃　大森　勉治
〃　神田　勝郎
厚生経済常任委員会
委員長　坂内　俊夫
副委員長　清野　稔
委　員　阿部　一
〃　金川　寿樹
〃　佐藤　正明
〃　茅原　新二
建設常任委員会
委員長　今井　誠
副委員長　高橋喜代一
委　員　伊藤　栄蔵
〃　田中　田一
〃　永井　一作
〃　佐久間正夫
議会運営委員会
委員長　佐藤　正明
副委員長　高橋喜代一
委　員　渋谷　泉
〃　今井　誠
〃　石川　敬一
〃　坂内　俊夫
議会報編集委員
委員長　今井　誠
副委員長　高橋喜代一
委　員　石川　敬一
〃　坂内　俊夫
〃　神田　勝郎

総合健診
進んで受診して自らの健康状態を確認してください。

7月5日(水)　二本木（二本木公会堂）
7月6日(木)　木津（木津農業構造改善センター）
7月7日(金)　午前　川根谷内（妙泰寺）
午後　藤山・駒込（藤山会館）
7月10日(月)　小杉（小杉地区コミュニティセンター）
7月11日(火)　午前　焼山（集落開発センター）
午後　沢海上（農村環境改善センター）
7月12日(水)　沢海中・下（農村環境改善センター）
7月13日(木)　横越上・下（老人福祉センター）
7月14日(金)　横越中（老人福祉センター）

※健診時間は、午前9時から11時30分まで、午後は1時から3時まで。
※健診を受けなかった人は、胸部レントゲンのみ7月12日午後5時から8時まで老人福祉センターで行います。